

KEK 史料室 平成20年度活動報告

関本 美知子 (KEK 史料室)

KEK 史料室の平成20年度活動について報告いたします。

既にいろいろなところを訪問した際、説明しましたので、かいつまんで報告いたします。

まずは KEK 史料室の歴史についてお話しいたします。

KEK史料室年表

2001年頃から	菅原機構長(当時)発案で高橋名誉教授活動はじめる 菅原機構長(当時)裁量のもとで史料室(仮称)が置かれる
2002年4月	第1回作業部会
2004年4月	機構内国際社会連携部の下に KEK史料室 が正式な組織として設置 前室長、着任
2006年3月	前室長、転出
2006年7月	現室長、着任
2007年1月	第16回作業部会
2007年4月	機構において 史料委員会規程 が定められる
2007年10月	第1回史料委員会開催
2008年2月	第2回史料委員会開催
2009年1月	第3回史料委員会開催

第1部 本研究課題の成果報告

2004年4月、KEK 史料室が機構内の正式な組織として設置されました。以前からの室長がひきつづき室長に就任されました。史料委員会が機構内で認められ、2007年4月には史料委員会規定が定められ、同年10月には第1回委員会が開催されました。先月23日には第3回目の委員会が開催されました。

資料受け入れ・収集状況としては、今までに受け入れた箱は約430箱、保管庫は実際に狭いことは狭いのですが、約25平米という数字については確認します。現在この保管庫はほぼ満杯のため、拡張計画を考えておりますが、目当ての場所は別のグループに取られてしまい、難航しております。

資料受入・収集状況と保管庫

- ・退職された研究者からの寄贈などが中心
 - ・その他、保管を依頼された資料

 - ・受入れた箱単位で約430箱
内ファイル化されたのは約160箱/年・人

 - ・2007年夏、日光実験棟地下2階に保管庫(約25平米)を確保
この保管庫は現在ほぼ満杯のため、要拡張
地下1階に同じ面積・空調設備付があり、
ここを第一候補として交渉を進める予定
- 他グループが使用のため別を探索中

2009.02.05

総研大基盤機関のアーカイブズ 全体会議

3

下の写真が KEK 資料保管庫です。





KEK の元 TRISTAN（トリスタン）用実験棟（日光実験棟）・地下 2 階にあった計算機部屋を使用しているため、空調などの環境条件は十分満足されています。史料室としては他の研究所のものと似た感じだと思います。我々はまだ受け入れた箱の状態で整理しているような状態です。

本年度、寄贈された資料は以下のとおりです。

今年度寄贈された主な資料

- 6月末 PS実験室に関する資料
（ダンボール29箱分）
- 9月30日 安見資料
（ダンボール16箱分）
- 1月30日 PS実験室に関する資料
（ダンボール10箱分）

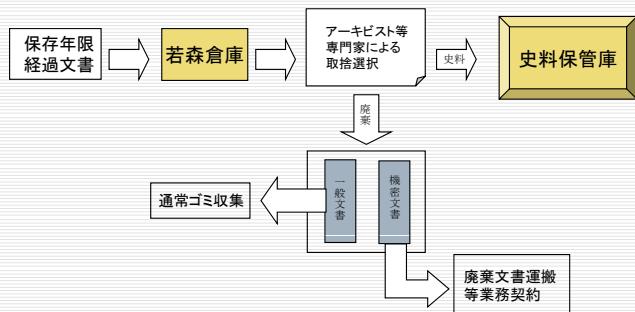
法人文書（公文書の取扱について、調整中）

第 I 部 本研究課題の成果報告

PS 実験に関する資料が主なものでした。PS が止まって、1 月 30 日に 東カウンターホールという主実験室が加速器の方で利用されることになったため、資料を含むすべてのものを運び出さなくてはならなくなりました。その日のうちに処分しなくてはならないといわれた廃棄物をすべてチェックしました。段ボール 10 箱というのは、選りすぐったものを史料室に運んできたものです。これらは特に PS 実験室が設立された時期、1960 年代から 70 年代初めの頃の資料です。どのようにマグネットやコントロールシステムが造られたかの資料ですが、まだ整理し始めておりません。

資料受入・収集状況と保管庫

・法人文書(公文書)の取扱について調整中



2009.02.05

総研大基盤機関のアーカイブズ 全体会議

6

特に、1 月に開催された第 3 回史料委員会の前に研究会を開いた際、国立公文書館・小原専門官に公文書館での公文書の取扱についてお話ししていただきました。そこまでやるのですか、と管理局の方から言われたりしました。KEK 史料室としてどのようにすすめていくか方針を決めるのは今後の課題です。

展示とプロジェクト共同研究は下のスライドのようにすすんでおります。

展示とプロジェクト共同研究等

- ・一般公開及びその後の企画展示 (コミュニケーション・プラザ内)
2006 年 朝永 振一郎博士と共同利用研究所
2007 年 ~ 日本における加速器の歴史 (I ~ III)
- ・ポスター作成 : 研究所の系譜、加速器の種類、
日本の大きな加速器 等
- ・小冊子の製作 : 日本における加速器の歴史、
KEK と共同利用研究所、など … 企画中
オーラルヒストリー冊子化
- ・パンフレット作成

2009.02.05 総研大基盤機関のアーカイブズ 全体会議 7

史料室ホームページを 2008 年 8 月 1 日に新装いたしました。まだ、史料の検索機能やデジタル史料の閲覧、英語のホームページなどはまだ公開しておりません。早急に取り組みたいと考えております。

史料室HP 8月1日に新装



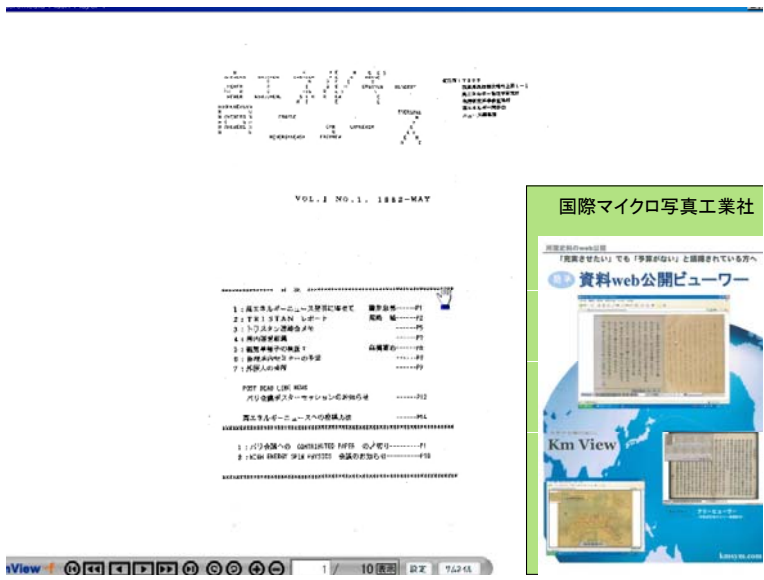
史料の検索機能、
デジタル史料のweb閲覧、
英語HP等が今後の課題。

2009.02.05 総研大基盤機関のアーカイブズ 全体会議 8

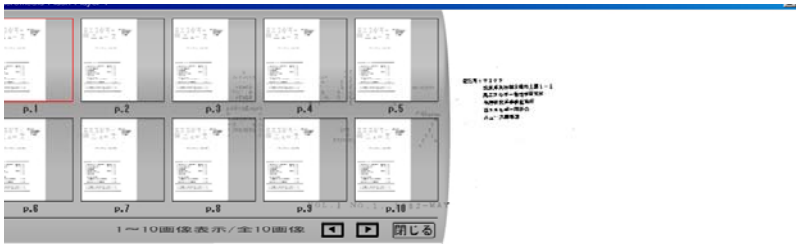
第 I 部 本研究課題の成果報告



上のページは研究活動のもので、まだ講演された方々から了承を得てはいたのですが、1月の研究会の報告もあがっております。了解を得られたら講演に使用されたパワーポイントなどの資料もPDFで見られるようにしたいと考えております。



前の画面は国際マイクロ写真工業社の KmView (ケーエムビュー) と呼ばれる資料ウェブ公開ビューワーです。無料で使用できます。左側に一例としてあげられている資料は、1982 年に発刊された『高エネルギーニュース』です。トリスタンの藤井忠男先生、尾崎敏先生、そして高橋嘉右先生の記事が掲載されています。こういった資料を多数見ることができます。



```

.....
1 : 高エネルギーニュース発行に専らして  発行日付-----P1
2 : トリスタン 25周年記念号  案内  編-----P2
3 : トリスタン 25周年記念号  目次  編-----P3
4 : 藤井忠男先生  掲載番号-----P4
5 : 尾崎敏先生  掲載番号-----P5
6 : 高橋嘉右先生へのインタビュー  掲載番号-----P6
7 : 藤井忠男先生の追悼  掲載番号-----P7

PREFACE (1982)  編
パリ会議形式でのセッションの開催  -----P10

高エネルギーニュースへの感謝状  -----P16

.....
1 : パリ会議への招待状 1975 年 11月  -----P1
2 : 1975年 11月のパリ会議 1975年 11月  -----P2
.....
    
```

高エネルギーニュース
(1982~2003)
High Energy Quarterly
(1984~1993)
高エネ研月報
(1972~1997)
がKmViewを使って
閲覧可能となる予定です。

サムネイル表示もあり、自分がどのアーティクルを見たいのを一覧から選ぶことができます。こういったページづくりをしたいと考えております。今ご紹介した『高エネルギーニュース』とあわせて、1972年から1990年あたりまでの情報を得ることのできる『高エネ研月報』と『High Energy Quarterly』の3誌を、KmViewを使用して閲覧できるようにする予定です。これらのページは既にJPEGファイルに変換済みとなっており、あとはKmViewにファイルを載せるといった作業が残っております。

第 I 部 本研究課題の成果報告

さきほど難波先生が核融合研における EAD 化についてのお話をされ、数段先を行かれてしまい、非常に悔しい思いをしておりますが、KEK も核融合研と同じ国文学研究資料館のシステムを使い、データベースの構築を目指しております。担当者は派遣の方に務めていただいておりますが、まだわからないところが多々ございますので、講師に実際に説明していただいたところ、大きな成果を得ることができました。KEK では中村優子氏に担当していただいております。現在は 1 アイテムずつの史料入力が可能ですが、これからはコレクション単位の一括入力が課題となっております。そのためにはデータベースをつくるのが先決であると考えております。

KEKにおけるEAD化への準備

符号化記録資料記述(Encoded Archival Description)について

国文学研究資料館のDB(<http://base1.nijl.ac.jp/~isad/>)を使って検索システムの構築を進めている核融合研、分子研、KEKの担当者を対象として3回にわたって実践講習が開催された。

KEKでは中村優子氏が担当。

現在 1 item(史料の最小単位;例えばファイルの中の1レポート)づつの入力は可能。コレクション単位の一括入力が次の課題。
ともかくデータベース入力が先決である。

KEK 史料における階層は次の図のとおりです。記号には 2 種類あり、国文研・五島先生に違いをたずねたところ、コンピュータ用(識別記号)と人間に理解しやすいもの(資料記号)であるとのことをお答えをいただきました。人間用には一目で「核研」などの単語が入っているのでわかりやすくなっています。例として、ES 関連の史料で説明いたしますと、ま

ず史料部として collection（コレクション）があり、kek0063-inses（コンピュータ用）、kek0063-核研 ES（人間用）といった記号を付けます。その 1 階層下には series（シリーズ）といて、保管箱単位（例：箱番号 025）で分けられており、kek0063-inses-025 もしくは kek0063-核研 ES-025 といった記号が付けられております。

KEK史料における階層

<階層>	既存のfp.での該当内容	識別記号 (Computer用)	資料記号 (人間用)
	関連している資料群のまとまり	INS	INS
collection	現在fp.データにて、資料群として分類されているもの	Kek0063-inses	kek0063-核研ES (でもよい)
		(fp.で付いている資料群番号と記号)	
series	保管箱	kek0063-inses-025	kek0063-核研ES-025 025は箱番号です
file	series内のファイル、アルバム等	kek0063-inses-025-001	核研ES-025-001 025は箱番号、001はfile番号です
item	file内の各史料 または内容が分割できないもの	kek0063-inses-025-001-001	核研ES-025-001-001

(例:核研史料ES関係 Box No.25)

2009.02.05

総研大基盤機関のアーカイブズ 全体会議

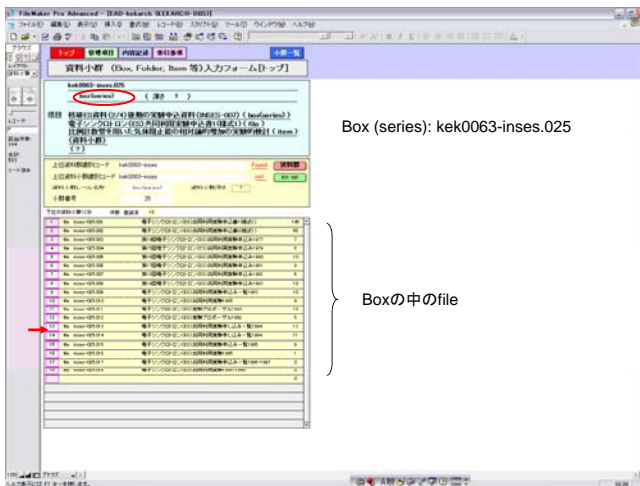
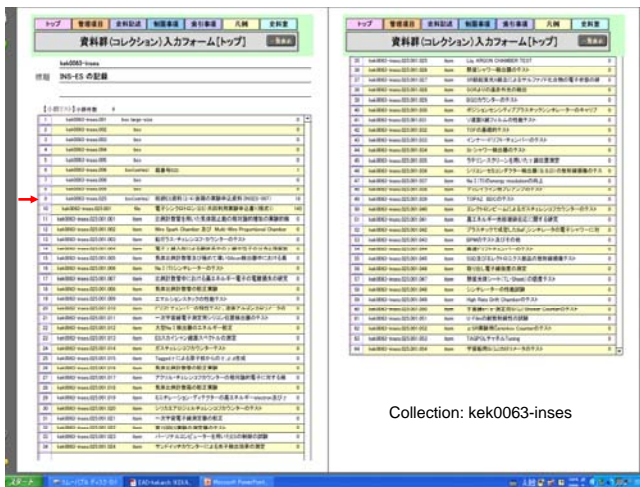
13

次の層 file（ファイル）には、series 内に収められているファイルやアルバムなどの番号（例：ファイル番号 001）を足しますので、kek0063-inses-025-001 および kek0063-核研 ES-025-001 といった記号が付けられます。最終層 item（アイテム）となりますと、さらに file 内の各史料番号もしくは内容が分割できないものとして（例：アイテム番号 001）kek0063-inses-025-001-001 および kek0063-核研 ES-025-001-001 といった記号を付けております。

我々がどのようにこれらの史料階層分けを行っているのか、先ほどの ES 関連の史料の例を画面を使って説明いたします。

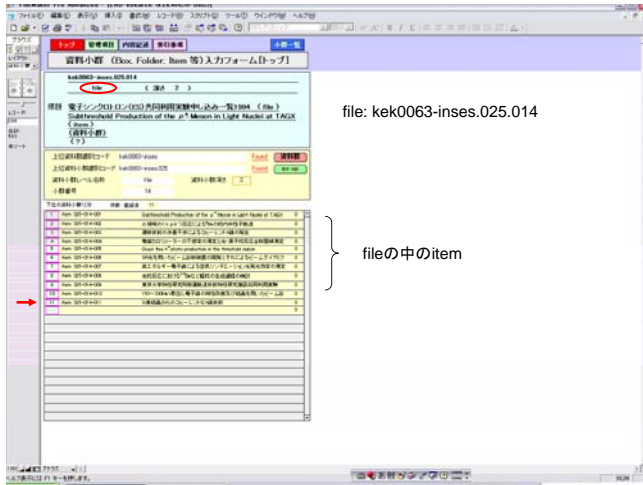
第 I 部 本研究課題の成果報告

まず、collection レベル (kek0063-inses) において、下の図の赤い矢印の項目・箱『kek0063-inses.025』を選択しますと、深さ 1 として、-025 という記号が追加されます (kek0063-inses-025)。

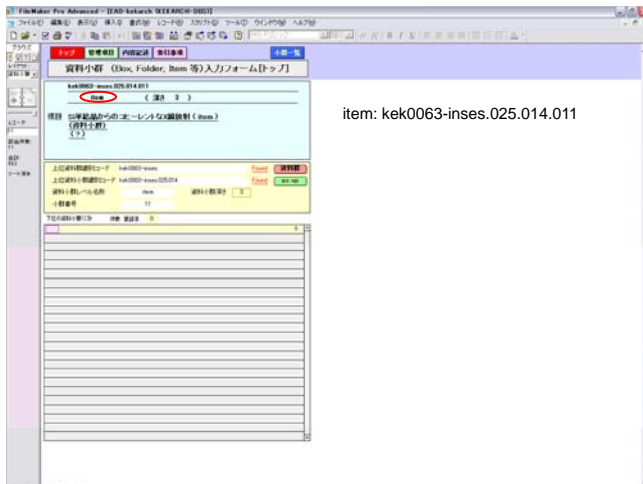


次の画面にて、ひとつ下の層である series レベル (kek0063-inses-025) に含まれるファイル・『file inses-025.014』(赤い矢印) を選択しますと、.014 という記号が追加されます (kek0063-inses-025.014)。

KEK 史料室 平成 20 年度活動報告 (関本)

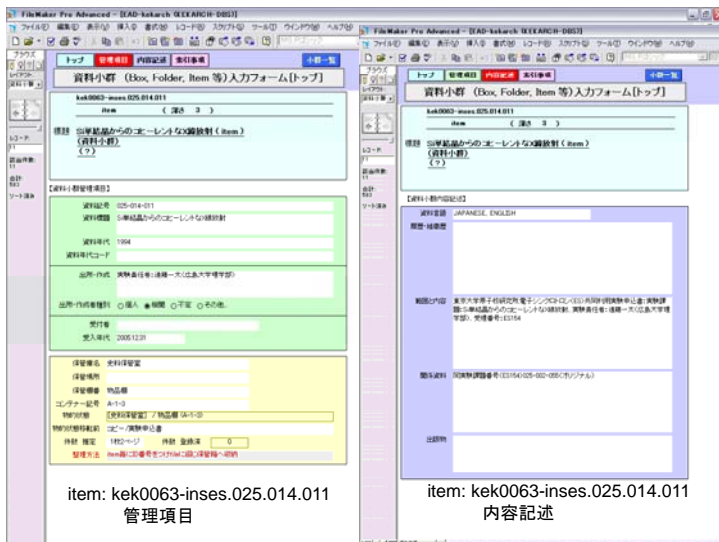


さらに、もうひとつ下の層である item レベル (kek0063-inses-025-014) に含まれるアイテム・『item-025-014-011』(赤い矢印) を選択しますと、.011 という記号が追加されます (kek0063-inses-025-014-011)。



最終的に item レベルにて、資料記号を入力いたします。

第 I 部 本研究課題の成果報告



この画面上には、『管理項目』『内容記述』『索引事項』というボタンがありますが、これらを選択することによってファイルについての各詳細を書き込めるようになっております。現在問題となっているのはこれら項目箇所を EAD 化する際の項目と合わせなくてはならない点です。EAD 化に対応するよう、手を入れて変更していかねばならないといった状態にあります。

来年度に向けての方針・予定についてお話しいたします。機構内では、広報室・図書室・史料室を社会連携部（仮称）というひとつの部署にするという編成変えが議論されております。史料室としては、これら 3 つの部署に全く関係がないとは言えないのですが、これが図書史料室となるのかどうなるのか、微妙な立場にあります。先ほどまでのみなさまのお話の中にも、広報室や図書室と関連があるといったことを多々聞くことがございました。それらのお話を参考に、これからの立場について考えていきたいと思っております。

KEK史料室

来年度に向けて……

広報室、図書室、史料室を社会連携部（仮称）として再編が議論中

史料室としては、保管庫の拡張が急務

人員確保：アーキビストorレコードマネージャー
データベース作成、HP管理、等
職員OB、非常勤、派遣等

共同研究者受入体制： 総研大との共同研究
「KEK最初の十年」

2009.02.05

総研大基盤機関のアーカイブズ 全体会議

19

そして、史料室としては保管庫の拡張についての問題をどうにか解決しなくてはなりません。室長が併任で1名、職員2名で現在運営しておりますが、来年度からは職員が1名抜けてしまいますので、とにかく人員を確保することも必要であると考えております。職員OBの方はもちろん、派遣の要請もあわせて検討をお願いしています。

共同研究については、受け入れ体制を確立させていきたいと思っております。平田先生がご提案されている総研大との共同研究「KEK最初の十年」をはじめとし、KEK史料室として共同研究を行っていただくと考えております。

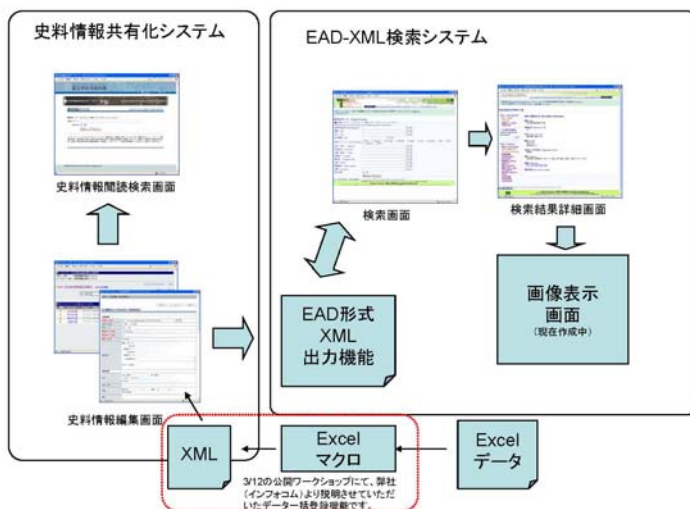
残念ながら、先ほどの核融合研のように学会発表や報告をできればよかったですのですが、私は研究者でもある傍ら、あそこまでの活動には至りませんでした。来年度はなるべく共同研究者と一緒に、いろいろな方面へ発信できるような体制をつくっていただけたらよいと考えております。

第 I 部 本研究課題の成果報告

【質疑応答】

村上：私ども生理研も EAD 化を来年頃には始めなくてはならないだろうと考えておりますので、大変参考になりました。EAD 化を行う際、もとの階層構造などいろいろいじらなくてはならない箇所が生じてくるのではないのでしょうか？何か、補足として注意したらよいことなどはありますか？

関本：私は途中から参加しているのですが、ひとつ大変参考になったことといえば、やり方が核融合研と KEK とはおおきく違うということでした。核融合研の方たちはアイテムから始められているが、KEK ではコレクションから取りかかっているという点です。どちらがよいのかという点は、もっている資料の量・大きさや整理の方法によって判断いただければとは思いますが、両方のお話をもとにどちらが生理研にあっているかご決断されるとよいのではないのでしょうか。私自身、EAD の ' E ' の意味も知らずにこの世界に入りましたが、ようやく最近階層レベルやらシステムの流れなどがわかるようになりました。



前の難波先生のスライド（核融合研・難波忠清「核融合アーカイブ室 活動の現状」より）にあるように、まずはシステムの流れを理解することが必要です。はじめに File Maker Pro などを使って XML ファイルに変換し、資料情報共有化システムに入力、次に EAD-XML 検索システムに変換する際、左と右の項目をあわせなくてはならないことに注意し、60 以上の項目の中から自分たちの機構に相当であるものを選択し、データベースを作成していくというのが大体の流れです。

小沼：今日配布された『KEK 史料室』という資料の表紙に掲載されている中間子の写真について一言。これは先ほどまで出席されていた西村純先生たちが撮られた写真です。写真の撮影者を明記しないのは問題です。この写真に限ったことではないのですが、写真には必ず撮影者と権利保有者がいます。アーカイブの中には、素人のとったスナップ写真もあれば、プロの写真家が撮った写真もあります。特に写真家はそれらの写真を一生の仕事としてやってきたわけで、たとえ本人が亡くなっていたとしても、必ず著作権の継承者はいるわけです。どうしても迎れないものとはもかく、非常に安易なかたちで利用されて失礼な事態になっていることがあちこちで見られます。これは私も含め、すべての人が気をつけなくてはならない問題だと思います。

関本：おっしゃる通りですね。著作権法や情報公開法に絡んで、オーラルヒストリーや受け入れた資料についても、気をつけていかなくてはならないと思います。ご指摘のパンフレット制作時はとても急いでいたこともあり、確認が不十分でした。例えば「東大原子核研究所の電子シンクロトロンが動き出したときに、西村純先生たちが日本で初めて撮られた人工中間子崩壊の写真である」という旨のキャプションをパンフレットに追記するなどしてきちんと対応いたします。

松岡：生理研でも来年度から EAD 化をすすめられるというお話ですが、最初は私たちも階層構造というものを全く理解できておりませんでした。我々の資料としては、学会会議何とか関連などといった

第 I 部 本研究課題の成果報告

資料の場合、いわゆるアイテムさえわかればあとは事が足りるのです。国文研・五島さんが関わられている古文書の世界では何とか家の何とか資料などと言っても関連が全くでてこないだろうと思うので、やはり古文書の世界と自然科学の世界では全く状況が違ふといった印象を持っております。核融合研ではアイテムレベルからすすみ、コレクションとして誰それ寄贈資料といったかたちで分けていく。その中には運営委員会を含め、いろいろな委員会の資料や一般の資料なども含まれてごちゃごちゃになっているわけです。行っている研究によって階層構造などの考え方もかなり変わってくると感じております。

難波：松岡先生の発言について一寸補足します。例えば、小沼先生から段ボール 100 箱の資料が届いたといたします。その場合、資料整理に 1 年も 2 年はかかってしまうので、とりあえず整理・分類がいきとどいていなくても、『小沼資料というものが 100 箱ある』といった情報だけでも提供する、ということが我々の言うところのコレクションレベルです。それだけであっても全く情報がないよりもよい。そういった情報だけからでも、小沼資料はここに問い合わせればきっと入手できるはずだ、とある程度目星をつけることができます。そういうことも必要であると思います。

平田：全くそのとおりだと思います。国文研・五島さんたちは資料だけ出されても、それがいかに貴重な古文書であろうとも、誰が集めたのか、それが何に関連しているのか、収集した人はなぜこうしたまとめ方をしたのか、そこまでが重要な情報であると考えています。例えば、寄贈された箱の中に新聞の切り抜きなどが入っているとします。それは関係ないから廃棄してしまうというのは間違いであり、実は何かしらに関連があるかもしれない。理由があってそこに入っていたのかもしれない。そういった貴重な情報を失ってしまうようなコレクションの整理の仕方をしてはいけなないと考えております。

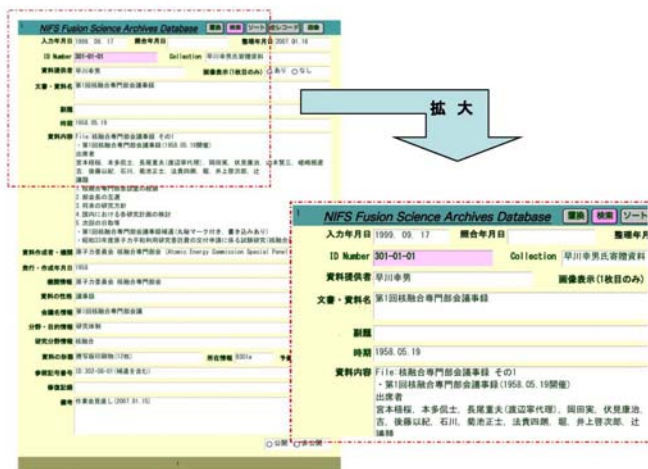
小沼：私も一昨年のこの研究会までは松岡先生と同様にアイテムがあれば充分ではないかという考えをもっておりました。しかし別の

科研費で高岩先生が行われているプロジェクトで勉強しているうちに、私は階層構造派に転向いたしました。難波先生は消極的に階層構造をサポートされておりましたが、私はもっと積極的にサポートしたいと思っております。その理由として、一例をあげます。2006 2007 年に湯川・朝永生誕 100 年の催しに関わる機会があったので、私は 2、3 年かけていろいろ書いたり、展覧会を開催したりいたしました。その際、展示した朝永の湯川に宛てた手紙の話です。1933 年に書かれたものが 2 つ、そして 1935 年のものが 1 つ。それらが両方とも湯川によって 1935 年の場所にファイルされていたのです。そのことは極めて重要な意味を持っていました。湯川の最初の間の子の論文の脚注には朝永が以前やっていたことを教えてもらい役にたった、と書いてあるのですが、それがこの 1933 年の手紙だったのです。その手紙がどこにあったのかという情報が失われてしまうと、絶対に今のような関係はわからなくなる。手紙などは、普通は年代順に並べましょうとなるわけです。利用者にとっては非常にわかりやすいかもしれませんが、このケースのように、それらがどこに置いてあったのかという情報がとても大事になることもあるのです。どこからかまとまってきたものにはそれなりの理由があり、もし学会で核融合研究連絡委員会のある年のものをあちこちからひっばってくるすると、それはそれで利用者にとっては便利かもしれない。しかし、収集した人がどうしてそういった資料のまとめ方をしていたのかという理由は別にあるわけです、どのコレクションのどのアイテムといった、見つかった時の情報・順序などは絶対変えてはいけません。コンピュータの時代なのだから、情報として収集しなおして委員会の年代順リストを作りなおせばよいわけです。それがどこにあるのか、引き出しひとつにまとまっている必要はないのです。むしろ、まとめられることによって失ってしまう情報もある。利用者にとってはアイテムだけでよい場合もあると思います。利用は個々のアイテムでなければなりません。段ボールのままでは利用はできません。それは情報として並べかえればよいということで、もとのまままとめておくのといった方

第 I 部 本研究課題の成果報告

がよろしいと判断し、階層構造派に転向した次第です。一昨年はなぜ階層構造のような面倒くさいことをするのかと感じており、中身もわからなければ内容もわからなかったですが、けれども今やそちらの方に考えを転向いたしました。

難波：例えばたった一枚の紙切れでさえ、どの段ボールの、その中のどのファイルに入っているのか、といった情報がデータベース上にはすべて入力されているわけです。



松岡先生が「アイテムレベル」を強調されるのは、核融合研では、実はアイテムレベルのレコード上にその上位階層の情報が失われることなく記録されています。つまり、アイテムレベルで扱っていながらデータベース上ではきちんと階層構造化されているわけです。このスライドを見るとアイテムごとに並んではいるのだけれども、階層構造化されていることがよくわかっていただけだと思います（スライドは核融合研・難波忠清「核融合アーカイブ室活動の現状」より引用）。

村上：大変面白いお話でした。実は我々のところでも整理を始めているのですが、何部もわら半紙に印刷されたものが研究所設立当時の資料として残っており、設立のための委員会の資料は、各委員に提供されたまま、係わった委員ごとにバインドしてあります。それをそのまま残し、委員の持っている感性のままに並べ、それぞれの個性を出しておいたまま資料として残していくということがただただ重要な情報となっていく、と思いました。